

- 1 単元名 ぼく・わたしだけのお話を作ろう～ごんぎつね、その後はどうなる？～
教材名 気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう（ごんぎつね）

2 本単元の目標

- (1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句について理解し、語彙を豊かにすることができる。
(2) 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。
(3) 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。
(4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能①	思考・判断・表現②	主体的に学習に取り組む態度③
ア 様子や行動、気持ちや性格を表す語句について理解し、語彙を豊かにしている。(C(1)オ)	イ 「読むこと」において登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ウ 「読むこと」において文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C(1)カ)	エ 進んで登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って感じたことや考えたことを文章にまとめようとしている。

4 単元について

(1) 教材観

本教材は、新学習指導要領解説の内容2〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。」カ「文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。」に基づいている。

児童は第3学年で「ちいちゃんのかげおくり」を読んで、「物語の出来事を自分なりに捉え、感想をもつ」という学習をしている。第4学年の本単元では、「話し合って、人物や物語に対する考えを深める」という学習をする。そして第5学年の「たずねびと」での「物語の全体像から考えたことを伝え合う」という学習につながっていく。

本単元で中心となる言語活動は、登場人物の気持ちの変化に着目して物語を読み、考えたことを伝え合う活動である。この活動を通して、一人一人の感じ方に違いのあることに気付くことをねらいとしている。本教材は6場面で構成されており、1から5までは主人公の「ごん」の視点で書かれており、「ごん」の心情やその変化が捉えやすく、場面の展開に沿って人物の気持ちの変化を想像しながら読む力を育てるのにふさわしい教材であると言える。

(2) 児童観(男*名、女*名、計**名)

本単元を学習するにあたり、以下のような事前調査を行った。

県学力診断のためのテスト実施（文学的文章）

番号	小問のねらい	正答	誤答	番号	小問のねらい	正答	誤答
11	叙述に即して行動の理由を捉える力	5	19	14	叙述に即して登場人物の気持ちを捉える力	3	21
12	叙述に即して適切な表現を用いる力	20	4	15	叙述に即して人物像を捉える力	17	7
13	叙述に即して適切な言葉を捉える力	11	13	16	叙述に即して登場人物の気持ちの変化を捉える力	12	12

県学力診断テスト問題を実施した結果から、「叙述に即して適切な表現を用いる力」については、正答者が学級の8割を超えていた。しかし、「叙述に即して行動の理由を捉える力」「叙述に即して適切な言葉を捉える」「叙述に即して登場人物の気持ちを捉える力」「叙述に即して登場人物の気持ちの変化を捉える力」については、正答者が学級の8割を超えていた。しかし、「叙述に即して行動の理由を捉える力」「叙述に即して適切な言葉を捉える」「叙述に即して登場人物の気持ちを捉える力」「叙述に即して登場人物の気持ちの変化を捉える力」については、正答者が学級の8割を超えていた。

える力」では、正答者が学級の5割に満たなかった。これらのことから、文脈に即して登場人物の気持ちや気持ちの変化、その根拠を読み取る力が必要であることが分かった。文章表現の一つ一つに着目し、根拠をもとに登場人物の気持ちやその変化を正しく捉えることができるよう力をつけていきたい。

(3) 指導観

本単元では、複数の場面の叙述を結びつけ、場面の展開に沿って登場人物の気持ちの変化を想像しながら読む力をつけていきたい。

そのためにまず、複数の場面の叙述をカードにし、話の流れに沿って並び替える活動を行う。その際タブレットを使用することで、全員が実際にカードの並び替えに取り組むことができる。また、その叙述のいくつかに意図的に誤ったものを入れることで、児童が教科書を読み返し、注意深く文章を読むきっかけとしたい。そして、カードの中から、五感で感じられる情景を表す語句にも注目し、登場人物の気持ちが表れていることに児童が気付くことができるようにする。児童が自分でノートに考えをまとめる時間と、ロイロノートを使ってカードを並び替えたり、シンキングツールを使って考えを分類したりする時間とを分けて、身に付けたい力を効果的に付けることができるようにしたい。

また、言語活動として、本単元で学習した情景描写や登場人物の人物像を活用して「ごんぎつね」その後のお話を制作する。そのために、これまでの板書や、学習内容を資料としてロイロノートに保存し、児童が振り返りながら制作活動に臨めるようにする。完成後には発表会を行い、友達と交流することで表現の感じ方には一人一人違いがあるということにも気付かせたい。

そして、本単元を通して並行読書を行い、新美南吉の他の作品にも触れ、作品の共通点を見つけたり、友達とおすすめし合う活動を通して、児童の読書活動の充実を図っていく。

5 単元の指導計画（12時間扱い）

次時	学習内容・活動	知	思	態	評価方法
1	1 題名と挿絵を使って物語を想像し、作品と出会う。 初発の感想をまとめ、共有する。			○	態：進んで登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりとは結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って感じたことや考えたことを文章にまとめようとしている。 【発言・ノート】 知：中心人物の様子や行動、気持ちや性格を表す語句について理解し、語彙を豊かにしている。 【発言・タブレット・ノート】 思：ごんの気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりとは結び付けて具体的に想像している。 【発言・タブレット・ノート】
	2 初発の感想から学習課題を設定し、学習計画を立てる。			○	
	3 挿絵やセンテンスカードを正しく並び替え、物語の全体を捉える。	○			
	4 情景描写に注目し、中心人物の気持ちを捉える。		○		
2	1 ごんの人物像を話し合い、ごんがいたずらをする理由を考える。		○		思：ごんの気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりとは結び付けて具体的に想像し、まとめている。 【発言・ノート】 思：兵十の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりとは結び付けて具体的に想像し、まとめている。 【発言・ノート】 態：ごんや兵十の気持ちの変化について、場面の移り変わりとは結び付けて自分の考えをまとめようとしている。 【観察・ノート】
	2 ごんの「つぐないを通して、兵十に伝えたい思い」について話し合いまとめる。		○	○	
	3 「ごんはもういたずらをしないのか」について話し合い、まとめる。		○	○	
	4 視点が変わること注目し、兵十の気持ちの変化について考える。		○	○	
	5 兵十はごんとの出来事を誰かに伝えたのかについて考える。		○		
3 (本時・2)	1 兵十がごんについて、その後誰にどのように伝えたのか創作する。	○	○		知：中心人物の様子や行動、気持ちや性格を表す語句について理解し、語彙を豊かにしている。 【発言・タブレット・ノート】 思：兵十の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりとは結び付けて具体的に想像しまとめている。 【タブレット・ノート】
	2				
	3 創作「その後のお話」発表会をする。		○		

6 本時の学習(10/12)

(1) 目標

- 中心人物の様子や行動、気持ちや性格を表す語句について理解し、語彙を豊かにしている。
(①ア)

(2) 準備・資料

・課題掲示用紙 ・単元計画表 ・ワークシート ・タブレット

(3) 展開

	学習活動・内容	教師の支援(◎は評価・☆はキャリアの視点)
つかむ3分	1 本時の学習課題と学習の進め方を確認する。 兵十が加助に伝えるなら、どう伝えるかお話を作ろう。	・学習計画を基にこれまでの学習内容や学習の流れを確認する。
考える25分	2 兵十が加助にごんとの出来事を伝えるなら、どんなことを伝えるのか、話し合う。(CW) 【予想される児童の反応例】 ・ごんを撃ってしまった ・くりやまつたけをくれたのはごんだったこと ・ごんを撃って、後悔していること 3 作品をもとに、その後の話を創作する。(PW) 【予想される児童の情景描写】 ・月は雲で隠れて見えませんでした。 ・雨がしとしと降っていました。 ・月が見えず、寒い晩でした。	・どんなことを伝えるか話し合うことで、その後の話に何を書くか選択肢を絞っておく。 ・一通り意見を出したところで、「創作の中に必ず入れなければならないもの」「入れたほうがよいもの」はどれかを問い、創作の際の参考になるようにする。 ・創作するときには、「兵十」の視点で書くこと「情景描写」を入れることの2つを決まりとし学んだことを生かす活動とする。 ・ロイロノートを使用し、挿絵の入ったカードに文章を入力していく。 ・躓きが見られる児童には、ロイロノートのヒントカードから選択し、創作できるようにしておく。 ☆必ず入れるべきこと、創作時の決まり、ヒントカードを提示することで、課題に最後まで取り組む力を身に付ける。…㊥
深める15分	4 自分の作った作品を紹介し合う。(GW) 5 友達の作品のよいと思った表現を発表する。(CW)	・自分の作品を紹介するときには、情景描写とそこに隠れた気持ちを説明するよう助言する。 ・友達の発表を聞くときには、どうしてその表現を使ったのか、理由を尋ねるよう助言する。 ・友達の作品のよいと思った表現は、メモしておくように伝える。 ☆自分の作品を発表するときは、どうしてその表現を選んだのか理由を説明することで、自分の思いを伝える力が育まれるようにする。…◎ ・友達の作品のよい表現を発表し、優れた表現を出し合うことで、次時の創作活動の参考になるようにする。 ◎中心人物の様子や行動、気持ちや性格を表す語句について理解し、語彙を豊かにしている。 【発言・タブレット・ノート】
振り返る	6 本時の活動を振り返る。(PW)	・創作時に感じたこと、友達の発表を聞いて感じたことなど、本時で学んだことや気が付いたことを書くよう助言する。 ・本時の活動を生かして、次時の創作活動に臨むことができるように意識づける。